

令和4年度愛知県広域水道懇談会（第3回）

【日時】 令和4年8月2日（火） 午前10時から正午まで

【会場】 愛知県自治センター4階第2会議室

【委員】 出席8名（欠席2名）

【議題】

- 1 愛知県水道広域化推進プラン（原案）について
- 2 水道広域化推進プラン策定に向けたスケジュールについて

【会議の概要】

○愛知県水道広域化推進プラン（原案）及び前回の結果とその対応について事務局から説明を行った。主な意見は次のとおり。

・水道事業者と上手くやっていきたいというような、やさしいプランであり、少し強さが足りない。実際進めていくにあたっては県のもう少し強いリーダーシップと、水道事業者が単独でやること、広域化をすることいずれを選んでも覚悟が必要だという思いを持てるようになるという。

・広域化は災害対応に対しても推進すべき方策であり、風水害に関しても1000年に一回くらいの確率で起こるようなL2クラスの災害も念頭に置きながら広域化をどう推進していくかを考えていく必要がある。

・当面のスケジュールの中で、「できることからの連携の推進」が強調されているが、これが強調されるとスケジュールに記載されている今後の展開が弱まる気がするため、必要な検討はきちんと進めていくということを示した方がいい。

・経験上、1上水道事業で複数の簡易水道事業を取り込むことは大変なことがあり、簡易水道事業との広域化の検討にあたっては、相当な規模の広域化が必要だというようなことを触れた方がいい。

・当面の具体的な取り組みにおける災害対応の強化の項目に、危機管理マニュアルや水安全計画の未策定事業者への支援とあるが、今後、大規模災害がいつ起きるかわからない状況であり、BCPに関しても明記した方がいい。

・山間部においては、水だけではなく交通や様々なインフラも今後厳しい状況になっており、他のインフラとの関わりや一緒に検討していくというような議論も重要。

・県行政の役割として、簡易水道等小規模な水道事業等の支援体制強化に向け、「検討」を行うだけでなく、「支援」も行うと具体的に記載いただき、そうした事業への支援を県と一緒に考えていきたい。

・大規模事故や災害が発生した場合、水の供給に対する影響は非常に大きく、ある程度の地域での相互供給等、広域化の検討は大変重要。また、カーボンニュートラルの実現に向けた取組を進めていくためにも、水道施設の再編、効率化を進めていく必要がある。こうした点から、プランの中で少し強めの表現をしていくことも必要。

- ・首都圏では支援体制のプラットフォームを作り支援する事例等あり、簡易水道等小規模な水道事業への支援も、そういう形の取り組みをしていくと良い。

- ・広域化の効果として、業務の集約化に伴う人員規模見直しにより職員の削減が可能という試算結果が記載されているが、水道に関わる職員数は十分減っており、職員が減らせるという書き方は望ましくない。人材の有効活用ができるようになるという記載が望ましい。

- ・第2回懇談会では、広域化パターン別のシミュレーション結果を示すことにより、将来この方向を目指せば、愛知県は大丈夫そうだという見通しを得ることができていた。しかし、プラン（原案）では、その結果の記載がなくなり、今後、事業継続が困難な事業を発生させないこと、水道基盤の底上げを行うことが、どの程度可能になるのか不明確になった。

- ・前回のシミュレーション結果では、名古屋市プラス愛知地域という規模での広域化を進めることで初めて大きな効果が得られていた。その要因はいくつかあると思うので、その要因を実質的に取り込むような内容に強化していただくとよい。

- ・県水道行政の役割として記載された「簡易水道等小規模な水道事業の支援体制強化」、「経営の一体化に向けた受け皿組織の構築」を力強く推進していただくことで、シミュレーション結果の記載がなくなったところをカバーしていただくことを期待したい。

- ・シミュレーション結果は、巻末もしくは別冊、参考資料というような形で残しておくことも考えてもらいたい。

- ・各水道事業者が策定している経営戦略等との齟齬を気にしているが、プランの段階でそこを気にしていると、愛知県では広域化は進まないだろうというのが、率直な感想。受け皿組織の構築をもう少し早める等、広域化を求める事業体に関して、県は全力で支援していくという強いメッセージをどこかに込めていただきたい。

○水道広域化推進プラン策定に向けたスケジュールについて、事務局から説明を行った。主な意見は次のとおり。

- ・プラン策定までに、今後、水道事業者の意見照会が3回も予定されており、その段階でこのプランが、よりマイルドになることが懸念される。県としては、あるべき姿を堅持しつつ進めていただきたい。

- ・広域化を推進する県生活衛生課の体制強化も必要。

○結びの言葉として、懇談会座長（京都大学大学院工学研究科 伊藤禎彦教授）から、次のとおり述べられた。

- ・この広域化推進プランは、まだあるべき論が議論できている段階である。この先、本当に立ちいかない時期が来るまで待つことなく、あるべき論をもとにした広域化が、愛知県で推進されていくことを望みたい。